

— 対象建造物一覧 —

項番	名 称	建築年代	構 造
①	鍔絵蔵	大正 15 年	土蔵造 2 階建 棧瓦葺
②	主屋	明治 27 年	木造 2 階建 棧瓦葺
③	離れ座敷	昭和 6 年	木造 2 階建 棧瓦葺
④	衣装蔵	大正 5 年	土蔵造 2 階建 棧瓦葺
⑤	調整蔵	大正 15 年	木造 2 階建 棧瓦葺 真壁造
⑥	一号蔵	大正 15 年	土蔵造 2 階建 棧瓦葺
⑦	米蔵	昭和初期	土蔵造 平屋建 棧瓦葺
⑧	道具蔵	大正 7 年	土蔵造 2 階建 棧瓦葺
⑨	貯蔵蔵	大正 9 年	土蔵造 2 階建 棧瓦葺
⑩	七連蔵	大正中期	土蔵造 2 階建 棧瓦葺
⑪	庭園	明治時代後期～	

【指定対象の概要】

名 称	① ① 鏝絵蔵
構 造	土蔵造2階建棧瓦葺
建 築 年	大正15（1926）年
用 途 （ 当 時 ）	店舗・事務室
外 観 の 特 徴	<p>周囲壁面を海鼠壁^{なまこかべ}として、窓扉、屋根鉢巻などには特色ある鏝絵を施している。</p> <p>東妻南面寄に左官の伊吉による「佐伊」の文字が刻されている。</p>



名	称	② ^{おもや} 主屋			
構	造	木造2階建棧瓦葺			
建	築	年	明治27(1894)年		
用	途	(当 時)	住居・女中部屋		
外	観	の	特	徴	明治27年に吉澤仁太郎が撰田屋に進出した当時に建てた玄関部と、大正12(1923)年に増築した本体部が一体となり、重厚な構えを演出している。



名	称	③ ^{はな} 離れ ^{ざしき} 座敷			
構	造	木造2階建棧瓦葺			
建	築	年	昭和6（1931）年		
用	途	（ 当 時 ）	客間・もてなしの場		
外	観	の	特	徴	高い軒高を持つ2階から庭の眺望を楽しむための建物である。 1、2階ともガラス窓を東面および南面に巡らせている。



名 称	④ ^{いしょうぐら} 衣装蔵
構 造	土蔵造2階建棧瓦葺
建 築 年	大正5（1916）年
用 途（ 当 時 ）	貴重品の保管
外 観 の 特 徴	扉口周囲に河上伊吉による鍍絵の秀作が残る。また、床下換気口の石扉には瓶を題材にするなど、独自のデザインが目立っている。 外部壁面の波形鉄板は建築当初のものである。



名	称	⑤ ^{ちようせいぐら} 調整蔵	
構	造	木造2階建棧瓦葺真壁造	
建	築	年	大正15（1926）年
用	途	（ 当 時 ）	サフラン酒などの調整
外	観	の 特 徴	鍔絵蔵をはじめ、主屋、道具蔵など複数の建物と一体となって、まとまりのある景観を形成している。



名 称	⑥ ^{いちごうぐら} 一号蔵
構 造	土蔵造2階建棧瓦葺
建 築 年	大正15（1926）年
用 途 （ 当 時 ）	住居など
外 観 の 特 徴	東側妻面に「吉」とする饅絵を掲げている。 外壁1階部分は戦前期の波形鉄板で覆っている。



名 称	⑦ ^{こめぐら} 米蔵
構 造	土蔵造平屋建棧瓦葺
建 築 年	昭和時代初期
用 途 (当 時)	米の保管
外 観 の 特 徴	県道に面する東側面に「吉」の饅絵を掲げている。 西側、北側壁面は近年の補修で金属板被覆となっている。



名	称	⑧ ^{どうぐぐら} 道具蔵		
構	造	土蔵造2階建棧瓦葺		
建	築	年	大正7（1918）年	
用	途	（ 当 時 ）	製品の貯蔵・諸道具の保管	
外	観	の	特 徴	東側に蔵前が取り付き、外壁は現在豎板貼としている。



名	称	⑨貯蔵蔵	
構	造	土蔵造2階建棧瓦葺	
建	築	年	大正9（1920）年
用	途	（ 当 時 ）	サフラン酒などの貯蔵
外	観	の 特 徴	東側妻面に「吉」の鰻絵を掲げている。 壁面は近年の補修で鉄板被覆に改修を受けている。



名 称	⑩七連蔵 ^{しちれんぐら}
構 造	土蔵造2階建棧瓦葺
建 築 年	大正中期頃
用 途 (当 時)	花火製造
外 観 の 特 徴	北側に蔵前、西側に物置を設け、覆屋と一体となっている。 外壁1階部分は建築当初の波形鉄板貼等としている。



名 称	①庭園 ^{ていえん}
構 造	
建 築 年	明治時代後期～
用 途 (当 時)	離れ座敷からの眺望、錦鯉の鑑賞
外 観 の 特 徴	名石や灯籠が庭園に点在し、独創的なデザインを有している。 県道側には約80mに渡り、亀甲積 ^{きっこうづみ} の石垣を築いている。

